

第3回 夜間中学等に関する協議会ワーキンググループ

オンライン授業の課題に対する検討について

- 資料1-1…オンライン授業の流れ
- 資料1-2…オンライン授業のプリント①、②
- 参考資料…オンライン授業体験の開催結果

令和6年2月8日

北海道教育庁学校教育局義務教育課

10月 24日 (水)

担当：桑原

授業の流れ	配慮事項
<ul style="list-style-type: none"> 自己紹介 四字熟語 「一期一会」 ホワイトボードにはる。 <p>今日のめあて</p> <p>「川柳について知り、さまざまな川柳を味わう」</p> <ul style="list-style-type: none"> 川柳を紹介 	<p>板書計画①</p> <p>例 「武蔵坊 とかく支度に 手間がとれ」</p>
<p>まなび</p> <ul style="list-style-type: none"> プリント①の川柳の基礎知識について説明する。 → 定型の575の17音である。字余り、字足らず。 音数の数え方について説明する。 俳句との違いを説明する。 → 俳句の特徴である「季語」「切れ字」等の説明 川柳の特徴について説明する。 シルバー川柳/サラリーマン川柳の紹介 いくつかの川柳について、ヒントをもとに最後の2~5音を予想する。→ (生徒) 予想した答えを発表する。4問の予定 江戸時代の川柳の紹介 	<p>プリント①を配る。</p> <p>「五七五」の穴埋め 板書計画② 例：「チューリップ」5音 例：「えっ！まじか！ 今日の歩数は 80歩」 「季語」の穴埋め 板書計画③・プリント①裏</p> <p>プリント②を配る。 オンラインで問いかける 解答用の台紙を配付 予想した答えを解答用台紙 に記入し、ホワイトボード にはってもらう。</p>
<p>ふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近な世相や人情、ユーモアが川柳のだいご味であることを知る。 感想を書く。できる人は川柳をつくってみる。 	<p>感想プリントを配る。</p> <p>「オンライン(5音)」を 入れてみてもよい。</p>
<p>いかす</p> <p>道新の川柳コーナーの紹介</p>	<p>時間があれば。</p>

<板書計画など>

ホワイトボードに掲示 ① 板書計画の□枠部分 (例) 四字熟語「一期一会」
実物投影機使用 ① プリントの答え 五・七・五
② 季語

プリント①②と解答用の台紙は、授業者の指示のタイミングで、会場に配付してもらう。
わかった人が書いた台紙を、ホワイトボードにはって掲示してもらう。

ぷりん と
プリント①

せんりゆう あじ
川柳を味わう

10/24

名前

きょう
今日のめあて

せんりゆう し せんりゆう あじ
川柳について知り、さまざまな川柳を味わう。

せんりゆう きそ ちしき
○川柳の基礎知識

せんりゆう
川柳.. . . の十七音。(定型)

しあま おんすう ていけい おお く
字余り...音数が定型より多い句をもつもの。

した おんすう ていけい すく く
字足らず...音数が定型より少ない句をもつもの。

おんすう かぞ なた
〈音数の数え方〉

ようおん ちい
・拗音(小さい「や」「ゆ」「よ」) → 前の音と合わせて一音。

ちようおん の おん いちおん
・長音(伸ばす音「ー」) → 一音。

そくおん ちい いちおん
・促音(小さい「っ」) → 一音。

れい ち ゆ ー り っ ぷ
例: チューリップ → ちゆ / ー / り / っ / ぷ 五音

はっおん いちおん
・撥音(「ん」) → 一音。

はいく ちが なに
○俳句との違いは何?

はいく とくちよう
〈俳句の特徴〉

きせつ あらわ ご
①季節を表す語 を入れる。

き じ く ちゆうしん やくしや かんどう ご
②切れ字「や」「かな」「けり」など、句の中心となる作者の感動をこめる語。

きせつ かん たいせつ さいじき きご ぶんるい
③季節感を大切に。「歳時記」という季語を分類したものがある。

ざんせつ はる ふうりん にじ なつ めいげつ たなぼた あき ふゆ
残雪・たんぽぽ(春)・風鈴・虹(夏)・名月・七夕(秋)・みかん・こたつ(冬)

さらりーまんせんりゆう
サラリーマン川柳

さら いっく せんりゆうこんくーる ゆうしゆうさく
「サラごと一句！わたしの川柳コンクール」優秀作から

① 下腹したばらに脂肪しぼうが集合しゆうごう 「 ですよ」

ヒント：ひらがな二字。コロナ禍にじ ころなでよく使つかわれた言葉ことばです。

② 会社かいしゃへは来るくなど上司じようし行いけと

ヒント：ひらがな二字。コロナ禍にじ ころなで、自宅りたくでの仕事しごとが増ふえましたが…。

しるばーせんりゆう
シルバー川柳

ぜんこくゆうりようろうじんほーむきようかい しるばーせんりゆう にゆうせんさく
全国有料老人ホーム協会「シルバー川柳」入選作から

① 「アーンして」むかしらぶらぶラブラブいま

ヒント：同じ「アーン」でも、年としを取とるとお世話せわをする意味いみに。

② 実は俺じつ おれ点滴てんてき、湿布しつぷの

ヒント：二つのことを同時どうじになすのを、最近さいきんはやりの言い方い かたで。

オンライン授業体験の開催結果

1 開催目的

広域な本道において、義務教育段階の学び直しを希望する方々への学びの機会提供手段の一つとして、ICTを活用した「オンライン授業」が有効と考えており、昨年実施した第1回目の施行により見えてきた課題を踏まえ、第2回目のオンライン授業を試行し、感想や意見をもとに検証を重ねていく

2 実施年月日

令和5年10月24日（火） 15:00～16:30

3 配信元

札幌市立星友館中学校

4 受信側

(1) 場 所

札幌会場：かでの2・7 10階1040会議室

釧路会場：釧路教育局会議室

(2) 参加者

札幌遠友塾 自主夜間中学

受講者8名・スタッフ13名 計21名

釧路自主夜間中学「くるかい」

受講者2名・スタッフ4名 計6名

5 授業日程・内容等

(1) 日程

時間	内 容
15:00	開 会
15:05	札幌市立星友館中学校の紹介 (星友館中学校 末原教頭)
15:20	オンライン授業体験
16:00	感想発表
15:20	アンケート
16:30	終 了

(2) 授業者

札幌市立星友館中学校 教諭 桑原 成子

※各受講会場に授業サポート役1名を配置

(3) 授業内容

国語「川柳」

(4) 感想発表

- ・授業者のテンポがよく、楽しい授業だった
- ・音声聞き取りにくいときがあった
- ・授業者が受講者個々の反応を十分把握できない状況で授業を行うため、スピードの調整が課題 など



(札幌会場の様子①)



(札幌会場の様子②)



(釧路会場の様子)

6 アンケート結果（札幌会場、釧路会場合わせた内容）

(1) 受講者から（10名）

授業は楽しかったか：とてもおもしろかった 6名、おもしろかった 3名、
あまりおもしろくなかった 1名

オンライン授業：またやってみいたい 8名、どちらかというをやってみいたい 2名

(2) スタッフから（主に授業サポート面）

- ・ 受講会場にもホワイトボードを設置し、補助の板書をしていてよかった
- ・ 受講者が分からない時にすぐ対応できるスタッフが必要
- ・ 対面形式と異なるため、受講者の疑問や要望を授業者はどう伝えるかが課題
- ・ 受講者が、随時、質問できるようになると一層理解が深まると考える
- ・ サポート役がいてよかった。受講者に対応するスタッフとの連携を事前に図ることが大切 など

オンライン授業関係者による意見交換会

開催日時：令和5年11月7日（火） 15:00～16:00

出席者：札幌市立星友館中学校、札幌遠友塾自主夜間中学、
釧路自主夜間中学くるかい、北海道教育庁義務教育課

【昨年度実施を踏まえた改善点】

- ・ 受講者に一台ずつ端末を配付することをやめ、前方の大きなスクリーン画面で授業を映した
- ・ 各受講会場にホワイトボードを置き、発信会場と同じ板書を行った
- ・ 各受講会場にサポート役を1人配置した

1 音声、画像の見え方

- ・ 授業の画面を中央一つにして、大きく映し出したのがよかった
- ・ 授業の映像が、明るくなったり暗くなったりしたので、発信会場のカメラの明るさの設定を、オートではなくマニュアル設定にした方がよい
- ・ 授業者には、受信会場の個々の受講者の様子が画面上で小さく見えただけで、楽しくやれているのかなど雰囲気あまり伝わってこなかったが、サポート役の補助があったので助けられた
- ・ 常に同時双方向で音声のやりとりができるのが理想だが、現状の機材では限界があるので、全会場においてマイクのオン、オフで対応するなど工夫し、聞きやすさを優先する必要がある

2 授業サポートの在り方

- ・ 授業者とサポート役の事前の打合せは非常に重要
 - ・ 授業者の指示に対してどこまでサポート役が関わるのか、サポート役としての役割を明確にする必要があった
 - ・ オンライン授業は、基本的に一方通行になりがちなので、サポート役が受講者と授業者をつなぐ役割を担い、対話が生まれるよう配慮する必要がある
 - ・ 授業の状況が授業者にダイレクトに伝わらないので、サポート役や個々に対応できるスタッフの存在も必要
 - ・ サポート役が授業者の意図を理解した上で、全体の様子を把握し、受講者に伝えるといった授業の形は確立できた
- ※一人一台端末の活用による授業は、パソコン操作のスキルと、授業を受けるスキルの両方が高まっていないと難しい